

研究課題（テーマ）	デジタルネイティブ世代の父親と母親における情報行動と育児行動の関連：夫婦の育児体制の転換期に固有の課題への影響		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科地域看護学講座	講師	大西 竜太

研究結果の概要

1. 背景と目的

現在のわが国は、父親と母親が共に育児の主体を担うという家庭内の育児体制の転換期にあり、この転換期には固有の育児課題や夫婦関係課題が生じる可能性がある。これらの課題は、デジタルネイティブ世代を取り巻くオンラインとオフラインの複合的な情報空間により複雑化することが考えられる。この潜在的な課題のリスク状況を実態として把握するにより、保健師は現代社会の特性を考慮して育児支援および家族支援を行う際の示唆を得ることができる。

本研究は、デジタルネイティブ世代の情報行動と育児行動の関連について、父親と母親の特性を探究し、夫婦の育児体制の転換期に固有の課題への影響を考察する。令和6年度は育児行動の中でも、乳幼児の食生活の困りごとへの対応場面に着目した。

2. 方法

2025年8月に0-3歳児の父親と母親を対象にクローズド・オンラインアンケート調査を行った。調査内容は、育児情報を収集するための情報源、乳幼児の食育の課題解決に活用した育児情報の質、心理社会的側面の尺度、日本語版コペアレンティング尺度などとした。

3. 結果と考察

研究の結果は4つの観点に整理された。

(1) 子どもの食事支援行動の実態と父親と母親の差異

食事支援行動（献立検討、買い出し、調理、食べさせる、一緒に食べる）は父親に比べて母親が大部分を担っており、その差は歴然であった。また、世帯年収が低い層の母親の食事支援行動は相対的に低頻度であり、子ども食堂などの貧困対策の重要性が示唆された。

(2) 健康な食習慣の形成を促す親の関わりと食生活リテラシーの関連

幼児の健康な食行動獲得に向けた関わりは父親・母親ともに食生活リテラシーが高い方が行っており、この傾向は父親において顕著であった。食生活リテラシーを高める支援の重要性が示唆された。

(3) 幼児前期の食育に関する保護者の困りごと解決に資する育児情報の質

母親はリアルな友人や育児仲間、SNSからの育児情報を重要視していた。父親はパートナーや公的な情報源からの情報を重要視していたが、友人・育児仲間やSNSからの情報は重要視していなかった。父親と母親には食育情報に対する主観的評価に大きな差があることが示された。

(4) コペアレンティング関係と育児感情の関係における父親と母親の差異

父親と母親ではコペアレンティングにおける夫婦間ニーズに明確な差があり、父親は目標達成に向けたコミュニケーション関係、母親は一体感がえられるコミュニケーション関係を重要視していた。共同育児における性差を夫婦が相互理解できるような育児支援が重要である。

今後の展開

食育児以外の子育ての文脈における育児情報の質の評価に関する調査を行うことで、総合的なデジタルネイティブ世代の育児情報の理解の仕方を把握する。